

鹿児島島の地質12

火山と川がつくる芸術～霧島の地形

地質担当 鈴木 敏之

霧島は韓国岳をはじめ高千穂峰や大浪池など20余りの火山が集まった九州でも屈指の火山地帯です。1年間を通じて登山客や観光客が絶えず、雄大な火山地形などを観察したり、その恵みの温泉を楽しんだりできる場所でもあります。これらの貴重な火山地形や地質を観光だけでなく教育活動などに活用しようとするジオパーク構想もあり、今後の取組が注目されています。

今回は、霧島市周辺に見られる火山から噴出した火砕流が固まった溶結凝灰岩などが川の侵食により創り出された芸術品である地形（滝や渓谷）をいくつか紹介します。

○丸尾の滝（牧園町丸尾）

高さ20m、幅20mの幅の滝で、豊かな水がしぶきを上げてダイナミックに落ちます。安山岩の柱状節理が顕著に見られます。



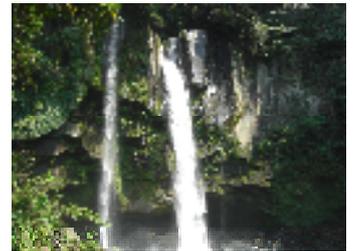
○千里ヶ滝（霧島町湯之谷）

高さが75mにも達し、霧島山系の中で最も落差が大きい滝です。温泉水の流入で白濁しています。



○犬飼滝（牧園町犬飼）

高さ35m、幅22mの滝で豪快に水が落ちる様が壮観です。河原は溶結凝灰岩です。



○<sup>おうけつ</sup>真米罅穴（牧園町宿窪田） ※霧島市指定文化財

上流から運ばれてきた砂や小石が溶結凝灰岩の河床の窪みに入り込み、侵食してできた地形です。



鹿児島島の昆虫20

ベニトンボ

昆虫担当 中峯浩司

「今まで見たことのない赤いトンボを撮ったんです。名前を教えてください。」

博物館に持ち込まれた写真やデジタル画像を見ると、案の定、赤紫色のからだ美しいベニトンボです。

私がこのトンボを初めて見たのは、1987年頃、大学のサークルの合宿で奄美大島の住用村に行ったときでした。池のそばでなわばりを張る雄の紅色の鮮やかさは今も忘れません。その個体はトンボ好きの後輩が採集し、「これ珍しいトンボなんですよ」と教えてくれました。しかし、当時の私はカミキリムシの収集に夢中でトンボには興味が無く、「へー、そうなんだ」と返しただけでした。

その後、本種が以前は台湾以南と、そこから遠く離れた池田湖・鰻池にだけ分布していたことや、1980年頃から台湾以南の個体群が

南西諸島を北へ分布を広げ、2000年頃に九州南部に侵入したことを知りました。

水生昆虫を求めて県内各地の水辺を調べていた2005年頃には、内陸部の池でも見られ、博物館のまわりを流れる水路でも、毎年その姿を見るようになりました。



ベニトンボは南薩に昔からいたトンボです。本種に限らず、近年、南方系のいろいろな昆虫が分布を北に広がっていますが、本当に温暖化が影響しているのか、それぞれの事例で原因を探ることが大切です。